

大 学 名 東北大学

【構想の概要】(組み立て直し後修正変更版)

日本における大学の国際化は、グローバル化する世界の潮流の中で日本が生き残るための基盤となる。最近話題となっている日本人学生の内向き傾向を打ち破り、世界に目を向けて巣立つ日本人を育成するためには、日常的に国際的環境にある大学を創り出していく必要がある。

本学は開学以来「研究第一」を理念、「実学尊重」の意識の下に、数々の科学的成果を世界に向け発信すると共に、優れた研究を通じた質の高い教育を構築し、性別、国籍に関係なく学生を受け入れてきた「門戸開放」の伝統がある。この伝統をさらに展開するため、平成19年に井上総長のリーダーシップによるアクションプラン(井上プラン)を公表し、真の意味で国際社会を主導するWorld Leading Universityとなることを目指している。

本構想は、本学のこれまでの国際的研究の推進に加え、教育の国際化を成し遂げるために、グローバル30採択校の教員のネットワーク(パイロットネットワーク)でパイロット的な企画を立案して必要な環境を醸成し、その成果を北日本地域の大学ネットワーク(エリアネットワーク)を通して共有化すると共に、グローバル30採択校ネットワークを通して日本全体の大学・高等教育機関のネットワーク(ユニバーシティネットワーク)に普及することを目的とする。また同時に、産業界との連携により留学生のキャリアを形成し、世界に理解される日本、世界をリードする日本を生み出す基盤を担うことを目標とする。

1. 学生交流の促進

本学の中国、米国、ロシアの代表事務所、9カ国14カ所の海外拠点、大学間協定144校と部局間協定301校、さらには3つの海外大学コンソーシアムを活用して、本学学生の留学を促進すると共に、国際共同教育(ダブルデグリーを含む)等各種教育プログラムを開発して、多くの国・地域から留学生の受け入れを行い、学生の流動性を高める取り組みを行う。また同時に本学教職員の国際交流を促進し、構成員全体の国際化意識の高揚に努める。尚、本学の海外校友会(中国、韓国、台湾、インドネシア)を通じて交流可能な大学、高等教育研究機関の発掘を行い、国際交流の促進を行う。

2. 留学生教育プログラムの構築

学部コース：理学部(化学科)、工学部(機械知能・航空工学科)、農学部(生物生産科学科)において、教養教育(全学教育)科目、専門科目を含め、英語による授業のみで学位が取得できるコースを設置する。

大学院コース：環境科学研究科、工学研究科(2コース)、経済学研究科、情報科学研究科、歯学研究科、医学系研究科(2コース)、国際文化研究科、理学研究科、工学・情報科学・環境科学研究科複合、医学・環境科学・農学・国際文化研究科複合、生命科学研究科において、英語による授業のみで学位が取得できる13コースを設置する。

これらのコースは本学の学位を審査する学務審議会において、本学の学位に相応しいカリキュラムと認証され、同レベルの授業として日本人の学生にも開放される。

3. 総合的な留学生の支援

心身の健康支援：保健管理センター、学生相談所等において留学生が母国語または英語で対応できるシステムを構築する。

住環境：留学生寮のほかに日本人学生との混住寮(ユニバーシティハウス)を拡大充実させ、国際的学友の輪を広げることによって日本人を含めた学生の国際交流を図る。

キャリア支援：産業界との連携、ネットワークによる留学生ジョブフェアの開催等日本企業への就職活動支援を積極的に行う。

文化活動：学部留学生は日本人学生と同様に課外活動に参加できるよう取り計う。また、日本人学生、学都仙台コンソーシアム学生、地域ボランティアとの交流の場を拡充し、地域との交流を図る。

4. 国際化に対する組織体制の整備

学務全般：日本人学生と留学生の融合を図るべく、グローバル30推進室を留学生課に設置し、留学生課を日本人学生の学務を司る教育・学生支援部に置く。

国際教育院の設置：留学生教育システムの開発と英語による教授法の開発、FGL(Future Global Leadership)プログラムの広報等、大学の国際化に対する支援を行う組織を設置する。

教育関係共同利用拠点の活用：高等教育開発推進センターと連携して国際連携による大学教職員のFD/SDネットワークを活用する。

ロシア海外大学共同利用事務所の運営：本学にロシア交流推進室を設置し、海外大学共同利用事務所の運営を行うと共に、大学合同の留学フェア、大学紹介、フォーラム開催の支援、及び日露学長会議の開催を行い、日露間の教育研究交流ネットワークの構築を推進する。

5. 大学間ネットワークの構築

パイロットネットワーク：本学を含め、筑波大学、名古屋大学等との拠点大学によるネットワークを構成し、大学の国際化に対する施策を企画し、パイロット的に実施する。

ユニバーシティネットワーク：また、同時にグローバル30推進事務局に企画を提案して、日本の全大学を包含するユニバーシティネットワーク(仮称)へ情報を開示する。

エリアネットワーク：更に、本学の高等教育開発センターで構築した北日本地域におけるエリアネットワークを活用して教育資源の共有化を図る。

【取組実績の概要】**・拠点大学の国際化**

東北大学は、中期目標・中期計画において、「世界と地域に開かれた世界リーディング・ユニバーシティ」という基本方針を掲げ、さらに「里見ビジョン」及び「グローバルビジョン」において、「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体としての東北大学」として、国際的な頭脳循環のハブとして世界に大きく貢献する真の「ワールドクラスへの飛躍」を果たすことを目指している。この基本理念のもと、海外拠点や海外協定校、コンソーシアム等によるグローバルネットワークとキャンパスの更なる国際化によるグローバルキャンパスの構築を推し進め、優秀な留学生の獲得と日本人学生の海外派遣促進を目指したグローバルな修学環境の整備に取り組んできた。また優秀な外国人教員招聘や国際経験の豊かな教員の採用、国際的な職員の国際化対応の推進に取組み、大学の国際化を力強く進めてきた。

・英語による授業のみで学位が取得できるコース

英語による授業のみで学位が取得できる国際コースであるFuture Global Leadership (FGL) programを計画通り開講した。学部教育では、理学部、工学部、農学部において3つの国際学士コースを平成23年10月に開設した。意欲にあふれた優秀な留学生に対し、本学独自の奨学金制度や日本人学生との国際混住寮「ユニバーシティハウス」への優先的な居住を含む支援体制のもと、国際教育院と学部専門教育体制の協力により、本学の教育目標・教育理念に基づく優れた教育を行っている。海外において積極的な広報に取組み、応募者は年々増加している。また、大学院教育においては、予定通り13の国際コースを平成24年10月までに開講し、全てのプログラムにおいて、入学した外国人留学生に対し先進的な教育及び研究指導が行われている。

・留学生受入のための環境整備

本構想における重点国である中国・インドネシア・ロシアにおいて、それぞれ海外拠点の整備を行うとともに、留学生の獲得のために、東北大学デイの開催（中国、インドネシア）、日露大学合同説明会（ロシア）を行った。中国からの留学生数は東日本大震災の影響で一時落ち込んだものの、優秀な留学生を確保できている。インドネシアからの留学生は近年著しく増加している。ロシアに関しては教育体制の違いもあり、多くの留学生の確保が難しい現状にあるが、サマープログラムへの参加や短期での研究交流を中心に学際交流が徐々にではあるが促進されてきている。

重点国及びそれ以外の国での積極的な広報活動も進めている。事業期間内に56回の海外留学フェアへの参加、延べ137校の海外高校訪問を行う等の活動を行った。

留学生に対する支援として留学生用宿舎や国際混住寮（平成25年度末で750戸開設）の整備や英語や母国語通訳によるカウンセリング、渡日前留学ガイドブックの作成、英語が話せる職員による支援体制等を整備した。また本学独自の「外国人留学生総長特別奨学生」制度を新設し、優秀な学生に対する経済支援を行っている。日本語が話せない多くの留学生に対し様々なレベルの日本語教育を施している。さらに就職支援として「外国人留学生のためのジョブフェア」を平成23年以来毎年行っている。

・海外大学共同利用事務所の整備

主に研究交流拠点として運営してきたロシア・モスクワ大学内の「東北大学リエゾンオフィス」を基礎として、ロシア海外大学共同利用事務所を平成22年9月に設置し、本学に設置のロシア交流推進室の総括のもとロシア人現地スタッフを常駐させ運営している。

我が国の大学の情報発信として、日露学長会議(3回)を開催し、教育研究の密接な推進に貢献している。またこれまで3回の学術フォーラムを開催した。優秀な学生の確保のために日露大学合同説明会をモスクワ、ノボシビルスク、ウラジオストクで開催し、我が国の多くの大学が参加した。また平成26年3月には日露青年交流事業を共催し、日本国内32大学の学生100名をモスクワ大学に100名派遣した。

学生募集を行うワンストップサービスに関し、事務所施設・設備やモスクワ大学内施設を希望大学が使用する際のアレンジを行う体制を整備するとともに、各大学からの教育関連情報に関する照会等への対応、事務所に来訪する日本留学希望学生への留学相談等を行ってきた。

・目標の達成状況

本事業実施期間中に本学の国際化は著しく進展し、国際コースの整備を始めとする国際的な教育プログラムの整備、留学生受け入れ環境の整備や日本人学生の海外派遣等を力強く推進してきた。東日本大震災により、外国人留学生数は一時落ち込んだが様々な広報活動に取り組みもあり、最近ようやく復調してきている。留学生数及び外国人教員数について平成25年度末で目標を上回ることができた。大学間交流協定等に基づく交換留学についても、計画時の派遣・受入と比べると飛躍的に伸びている。さらにこの数年にわたり、短期での派遣・受入プログラムであるスタディアブロードプログラム(派遣)やサマープログラム(受入)の拡充に努め、短期から長期への派遣・受入留学生の増加を目指して、戦略的に取り組んできているので、今後その成果が交換留学生数の更なる増加としてあらわれてくることが期待される。